

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第17号
2021年11月8日
編集・発行 吉成正士

弘瀬喜代さん人権講演会(10月29日) 第2部

心を支え共に立ち向かっていける人に

私は今日の話が本当に心に残りました。結婚差別についてはこれまでも習ったことがありましたが、教材を読んだりすることしかなかったので、体験談を聞くのは初めてのはずです。結婚は少し前の教材でも書きましたが、私にとってはまだ遠い世界の話でした。同時に部落差別のことも、感想では、「いけないことがよく分かった」とか書いていましたが、どこかで私には関係のないことだと思っていました。しかし今回の弘瀬さんの話を聞いて、「ここにいる全員が必ず部落差別にぶつかる」と聞いて、前までの授業のときよりも、もっと深く大きく学ぶことができたように思います。もし、誰かに差別され拒否されても、諦めず立ち向かっていくように、周りの誰かが差別されたら、心を支え、共に立ち向かっていくような、そんな人でいようと思いました。

とっさに質問が思い浮かばなかったですが、今は訊きたいことがたくさんあります。直接ありがとうございますを伝えたいです。それくらい心に残る話でした。2組山口明日香

「必ず部落差別にぶつかる」というのは、恐らく本当のことだと思います。なかには、「ぶつかったことがない」と言う人もいます。でもそれは恐らく、部落差別だと気づけてないだけです。部落差別に限らずですが、いろんな差別を知っていなければ、その差別にぶつかっても、それが差別だとは気づけません。つまり、いろんな差別について学んでいなければ、ぶつかっても、「ぶつかったことがない」になってしまうのです。「ある」のに、「ない」ことになってしまうのです。だから、差別をしない人になっていくためには、いろんな差別問題・人権問題について学んでいくことです。



けど、この学びにゴールはありません。どこまでいっても学び尽くすことできないからです。かといって、学びをやめると、どんどん差別意識に染まってしまいます。私たちは、「真っ白」にはなれないかもしれませんが、でも、限りなく「真っ白」には近づけます。みなさんにもぜひ、そんな人に

なっていってほしいなと思います。

「ありがとう」は、この感想文を送ることで、必ず弘瀬さんに伝えますね。でももっといいのは、直接伝えることです。そんな機会を、そんな出会いを、自分からつくっていくことです。

勇気はみんなに必要

今回結婚差別の話聞いて、言葉のように簡単にいかないものなんだと実感した。正直、今までは反対される“だけ”のように考えていたので、自分がどれだけ人権意識が低いのか思い知らされた。結婚差別は部落の人だけが受けるのではなく、相手もつらいものになるし、もしそこで何がいけないのか、何が正しいのかが分からずに終わらせてしまえば、後悔が残ってしまうという現実も知り、自分も今後出会ってしまったら、変に習った言葉を並べるだけではなく、自分の気持ちを強く持とうと思った。部落差別やいろいろな差別によって命を絶とうとする人や、悲しむ人が一人でもいなくなるように、自分もできることがあれば関わりたいと思った。差別がある現状から逃げずに立ち向かうというのは、とても勇気があるけれど、その勇気で報われる人がいるのなら、その勇気はみんなに必要だと思う。おじさんの子ども、えみこさんのような考え方の人が増えていってほしいと思う。
3組石田汐音

私は、「差別は損の分け取り」という言葉の意味が、最初よく分かりませんでした。けど、結婚差別の事例をいくつも聞いていくうちに、また関わっていくうちに、「もし自分だったら…」と考えると、ストーンと腑に落ちました。

差別は、された方はもちろんつらいし苦しい。けど、した方も実はつらくて苦しい。つまり、お互いに「損の分け取り」になるということ。そんなことになるのならしなければいいのに、と思います。なぜそんなことになるのか。

自分の価値観を頑なに守ろうとすると、他人の違った価値観が受け入れられなかったり、他人に自分の価値観を押しつけたりします。そこでギクシャクして反発し、他者をのけ者にしたり、他者を線引きしてしまったりするのです。つまり、分かり合えないわけです。人をつらく苦しい思いにさせてまで守らなければいけない価値観とは、何なんのでしょうか。自分がそうするのは勝手です。でも、それを我が子にまで押しつけるというのは、どうでしょう。

「それが、あなたの幸せだから」
という決めゼリフ。

「それは、あなたの幸せでしょ」
と言いたくなる自分。

たとえ親子であっても、人格は別だし、人生も別物
です。親が自分の人生を歩んできたように、子どもも
自分の人生を歩んでいくのです。

みなさんは、みなさんの人生を歩んでいくのです。

必ず差別を跳ね返してやる

今日、弘瀬さんのお話を聞いて、いろいろな感情が
浮かんできました。

まず一つめのつとむさんの結婚差別について。つと
むさんの、結婚したいけど親の反対の意見もあるから
できないということは、なんだか分かるような気がします
。けど男だったらまりさんと結婚してほしかったとも思
います。

二つめのまさひこさんの話について。僕はいい話だ
なと思いました。もちろん周りの人の支えもあったのかも
もしれないけど、自分が結婚したいからみさんと神戸
に行くというのは、すごい行動力だなと思います。

そしてこの2つの話を終えて弘瀬さんはこう言いま
した。「差別に関わらずに人生を終えることはない」と。僕
はその時はとしました。弘瀬さんが例に挙げた2人の
話を僕は、「他人事」として捉えていたからです。次に差
別されるのは自分かもしれない。そう思うと、なんだか
怖い気持ちもありますが、必ず差別を跳ね返してやる
という気持ちも湧いてきました。もしかすると、早ければ3
年後にそのようなことになるかもしれません。その時に
自分はどのような行動をとるべきなのか。今日の話を
参考にして、将来のことを考えていこうと思いました。

4組谷口昊太朗

そうなんです。「その時」になってから急に考える
には、結婚はあまりにも重大なイベントなんです。だ
から、今から少しずつ考えておくことです。特に男子！

というのは、女子と男子の成長の度合いによるのか
もしれませんが、結婚に対する意識や認識は相当違う
気がします。だから、男子は女子の考えや意見を聞いて、
ほおー！と思うこともあるでしょうし、女子は男子の
考えを聞いて、はあー？と思うこともあるように思
います。いずれにしても、みんなが早い段階から考
えておくことです。

自分が部落出身という認識を持っていた中学生の多
くが、その年齢から結婚について真剣に考えていま
した。自分が結婚するときに、差別されないかという不
安があったからです。実際につきあい差別や恋愛差別、
結婚差別があり、そんな話を身近に聞いてきたからで
す。

その一方で、部落出身ではない中学生は、そこまで

真剣には考えていませんでした。これでは、結婚のと
きに意識の差が生まれるのは当たり前です。だからそ
の差を埋めながら、結婚ま
での道のりを歩いていくこ
とが必要になるわけです。
自分事と他人事の自覚の差
は、こんなところにも出て
くるわけです。



信頼できる人たちと一緒にたたかう

自分が同和問題と立ち合ったとき、今の自分なら頭
を抱えて何もかもが分からなくなると思います。です
が、弘瀬さんがおっしゃってくれたことが自分の心に深
く刻まれて、自分はそのまでの人間なんだなと気づかさ
れました。何をするか、どうしたら解決できるか、そんな
ことはどうだってよくて、同和問題以外の話でも同じで
す。いざ自分に関わったときに、人を動かせる、心を動
かせるような人になり、その問題に正面から向き合うと
いう自分の強さがあるかどうかが、自分の中では必要
になってくるんじゃないかと思います。それは一人では
解決できる問題もあれば、そうでない問題もあります。
その時は信頼できる友人、人、そんな人たちと一緒に
たたかう。そして差別をなくしていくんだと思います。

僕は結婚を本気で考え、相手のことを心から好きに
なれる人、この人と人生を共にしたいと思える人と出会
ったときに、相手が同和地区の出身だとしても、その問
題を打ち返せる、そんな人になりたいと思います。結婚
できるか分かりませんがねっ！ 5組富岡稜生

ここでは結婚をする前提で話をしてきましたが、結
婚がすべてではないですね。選んで、「結婚をしない」
という人もいます。それぞれの価値観ですから、それ
もアリです。にもかかわらず、いわゆる結婚適齢期に
なると、どこからともなく、「結婚しないの？」とか、
「誰かいい人いないの？」とか訊かれることが、昔は
ありました。「無神経なこと訊くなあ」と今なら思っ
てますが、今もそんなこと言う人はいるのでしょうか。

LGBTQとか、LGBT+とか言われる時代になりました。
そのことを前提にすると、結婚しないという選択肢も
あるし、同性とパートナーシップを結ぶということも
あるということです。前述のような質問をする人の意
識の内面には、「結婚は異性とするもの」という意識
が見え隠れします。そんな人に、異性以外の選択肢を
言うことは相当な勇気がいります。たいていの場合は、
誤魔化す以外に方法がありません。でも本当は、結婚
しようがしまいが、どんな結婚をしようが、その存在
のままで祝福されるべきです。ありのまま、そのま
まで祝福されるべきです。



第3部に続きます。